

～ハケ岳山麓の自然に育まれた歴史と文化をたどる道～

棒道は、ハケ岳の南麓から西麓を通り、諏訪方面にまっすぐ伸びる道です。

ここは、甲斐源氏が力を蓄えた地。平安時代、ハケ岳山麓には、朝廷に馬を貢納するための牧場・御牧が設けられていました。12世紀、常陸国(茨城県)から父義清と共に市河荘(現在の中央市・昭和町・市川三郷町付近)へ配流された甲斐源氏の祖・源清光は、ここに目を付け移り住んできたといわれています。

棒道の来歴には諸説あります。武田信玄が北信濃攻略のために作った軍用道路であり、ハケ岳南麓を直線に近い最短距離で切り開いているところから棒道と名付けられたという説。原村(諏訪)やハケ岳南麓の村々(谷戸城跡の周辺や長坂駅の周辺)の民衆たちが行き来する道として自然に発生した道だという説などがあります。道筋の全体像もはっきりとは分かっておらず、『甲斐国志』には上・中・下の三本があると記されていますが、「上の棒道」だけだったという説もあります。有力な推定ルートとして、わかみこ(北杜市)から立沢(長野県富士見町)を経て、大門峠(長野県茅野市・長和町)に至る道筋があります。

棒道を歩くと、北にはハケ岳、西には甲斐駒ヶ岳、北岳、鳳凰三山、南には甲府盆地の向こうに富士山が佇む、いにしえの人々も見たであろうダイナミックな景観が目に入ります。山林、そば畑、田園、堰(農業用水路)などの今に続く生活文化の姿が心を和ませてくれます。雄大な眺望の中、積み重ねられてきた歴史に思いを馳せながら、のんびり探訪する。それが、棒道を歩く醍醐味です。

甲斐源氏の躍進

12世紀、甲斐源氏の祖・源清光は、ハケ岳の自然が育てた御牧に目をつけ、市河荘(市川大門町)から逸見(北杜市)に移り住み、「逸見」という姓を名乗りました。その後、清光の子・信義は、南下して武田(韮崎市神山町)で元服し、

武田家の祖となりました。やがて県内各地、全国各地へ勢力を伸ばす、名門武士・甲斐源氏のルーツをたどり、12世紀からつながる甲斐国の歴史を探訪します。

武田信玄の伝承

棒道の周辺には武田信玄にまつわる伝説が語られる地が多く残されており、当地に住む人々にとって信玄が身近で

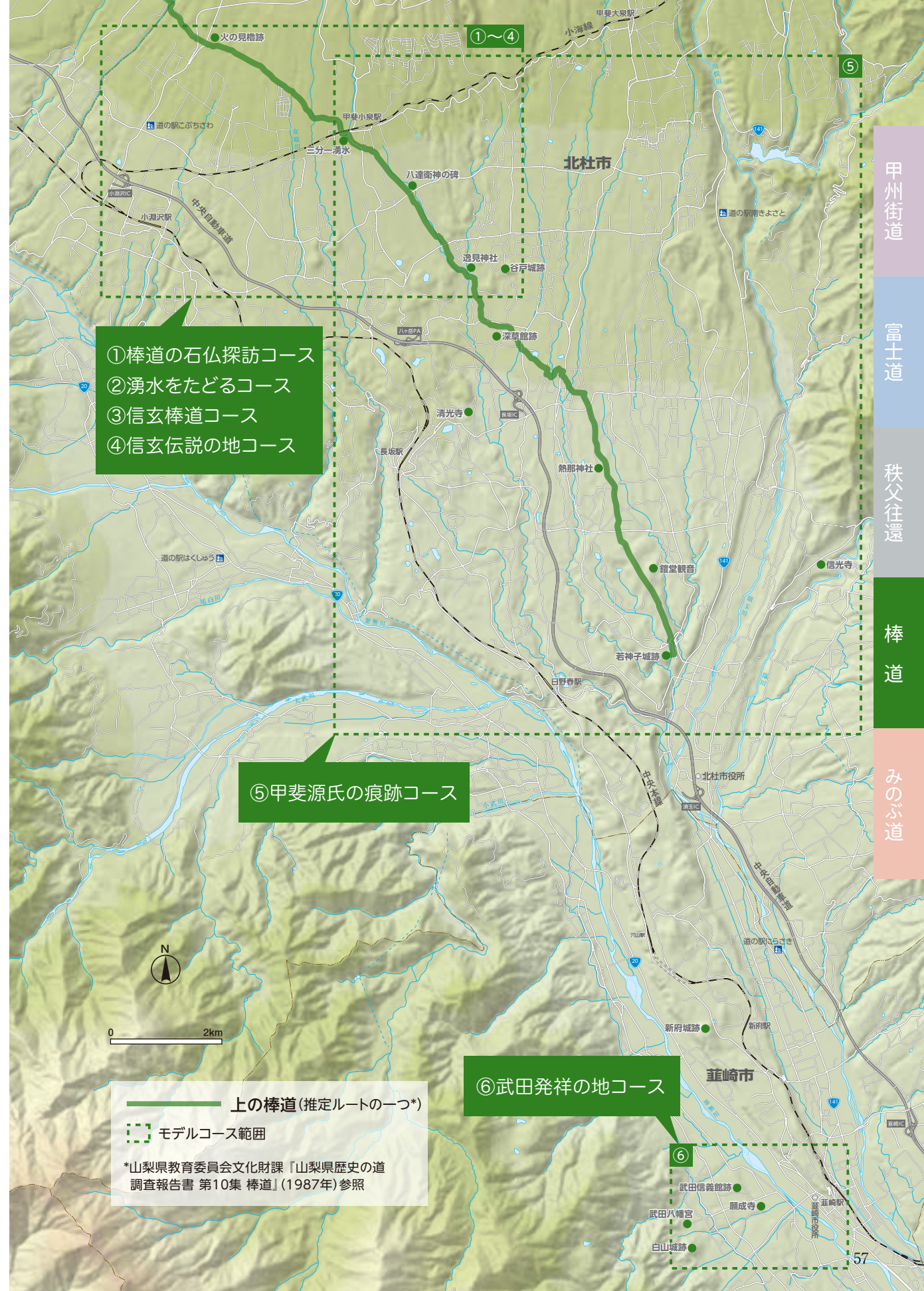
尊敬すべき武将であったことが伝わってきます。信玄伝説の地を巡り、信玄の足跡と影響を振り返ります。

ハケ岳山麓の生活文化

江戸時代の終わり頃、人けのない棒道をゆく旅人や商人を案じた村人たちは道を整え、沿道にハケ岳の岩石で作った石仏を安置しました。水利が乏しいハケ岳台地で、限られ

た水源であるハケ岳の湧水を平等に使うため、下流に住む村人たちは工夫を重ねてきました。こうしたハケ岳山麓の人々の思い、祈り、生活の知恵をたどります。

モデルコース	甲斐源氏の躍進	武田信玄の伝承	ハケ岳山麓の生活文化
①棒道の石仏探訪	●	○	◎
②湧水をたどる	—	—	◎
③信玄棒道	●	◎	○
④信玄伝説の地	●	◎	○
⑤甲斐源氏の痕跡	◎	○	●
⑥武田発祥の地	◎	○	●



甲州街道

富士道

秩父往還

棒道

みのぶ道